

◎ 現地派遣職員 の 報告

① 消火応援活動

■阿部次夫・高橋規夫・荒井 守・秋山佳宏

■その1・消火救助活動

1 派遣に至る経過

平成七年一月十七日(火)午前五時四十六分頃、淡路島を震源とする直下型地震が発生し、その後テレビ、新聞等のマスコミ情報による被害状況、範囲等の情報収集活動を実施した。そして、時を追うに従い、阪神・淡路大震災の被害の甚大さが明確になってきた。

それは典型的な都市型震災であり、まさに壊滅的打撃という状況であった。この段階から消防局内では、応援派遣要請があった場合の対応について検討を開始した。

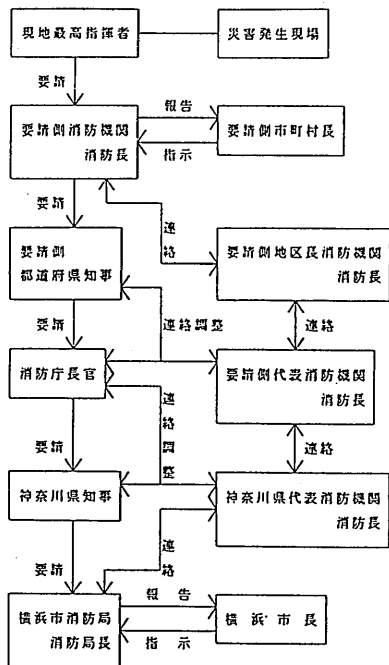
一月十八日(水)、引き続き、報道情報、自治省消防庁速報等の情報収集活動と併せ、消防隊等の応援要請を受けた場合を想定し、横浜市消防広域応援基本計画に基づく派遣体

制を整え待機していたところ、同日九時三十二分、自治省消防庁から神奈川県防災消防課へ消防隊の要請があり、続いて九時三十四分、神奈川県防災消防課から当局に対し、消防隊応援派遣要請を受領した。

この要請を受け、九時三十五分、消防局内において消防広域応援対策会議が開催され、消防局では応援派遣可能の旨を市長に報告した。

当局からの報告により、市長から正式な応援派遣の指示を受け、直ちに派遣計画に基づき、九時四十分、消防隊十隊(水槽車五台、普通消防車五台)及び総合指揮者として警防係長、指揮補佐一人、国際消防救助隊員三十五人、救助隊員十三人の計五十人の精鋭救助隊員が招集された。

図一 1 神奈川県外消防機関の応援要請系統
- 消防組織法第24条の3に基づく応援要請 -



(注意) 横浜市が応援要請する場合は、本要請系統の逆ルートとする。

- ① 消火応援活動
- ② 医療応援班の活動報告
- ③ 飲料水の供給活動
- ④ 下水道の復旧活動
- ⑤ 建築物の安全確認
- ⑥ 港湾施設の復旧
- ⑦ ごみの収集等
- ⑧ 福祉相談
- ⑨ 義援金交付

その1・消火救助活動
その2・被災地で活動中の全国消防職員等への食料品調達と搬送
その3・広域航空消防応援活動報告

- 1 派遣に至る経過
- 2 経路
- 3 神戸市消防局の対応
- 4 消火活動
- 5 救助活動
- 6 今後の課題

十一時三十分、消防訓練センターにおいて、人員の点呼、派遣車両への救助消火資機材の積載、経路の確認等を行い、ここに消防局精鋭部隊の編成が完了した。

警防部長から訓示、警防課長から激励を受け、十二時〇〇分、「管外応援協定外出場指令」が発令され、陸上第一次派遣隊の先発隊（生麦、菅田、権太坂、上永谷、能見台）の五隊が、市衛生局医師団車両二台とともに、神戸市に向け出発した。

続いて十五時〇〇分、後発隊（市沢、日吉、長津田、深谷、下瀬谷）の五隊が、消防局長からの訓示、警防部長からの激励を受け、消防訓練センターの所長以下職員に見送られ、先発隊同様、一路神戸市目指し出発した。

2 二経路

消防隊間の連絡は、消防系無線の県内共通波を使用し、梯団維持に努めつつ、東名高速自動車道横浜ICから進入し、名神高速道路京都南ICまで順調に進んだところ、途中の道路情報どおり京都南IC以西は、一般車の通行禁止となっていた。

我々は、横浜市消防局の応援派遣隊である旨を通行規制にあたっていた警察官に説明すると、パトカーによる先導をしてくれ、吹田ICまで名神高速道路の通行ができた。先導してくれたパトカーとは、吹田ICで感謝の礼をすませて別れ、再び近畿自動車道路にて尼崎東ICに向け南下中、尼崎東IC手前約三km付近において、神戸市方面に大量の黒煙の上昇を視認するとともに、他都市応援派遣

隊の活動無線を傍受するなど、次第に震災現場に近づきつつあることを実感した。

なお、途上逐次、派遣部隊の状況を当局に速報するとともに、震災情報を入手し、被害状況を把握した。我々にもたらされる情報は悲観的なものばかりで、しかるべき活動内容を予想しつつ、危険予測等の安全措置方策についても検討を行った。

さらに我々は国道2号線に入ると、道路の損壊、路肩の崩壊及び家屋、電柱等の工作物の倒壊が多くなる一方、被災地に向け、警察、消防、自衛隊、日赤等の関係行政機関の車両、そして救援物資を満載しているトラック、報道車両が進行し、国道2号線はまさに「救済ロード」の様相を呈していた。

また、車窓から、疲労と困惑した顔の多数の被災者を目のあたりにすると、地震エネルギーの恐ろしさを改めて認識するとともに、派遣隊員全員が一刻も早く活動を開始し、一人でも多くの人命の救出をしなければならぬという使命感を強く感じた。

一月十九日、〇時〇九分、先発隊は指定集結場所である神戸市役所災害対策本部前に人員車両とも異状なく到着した。ここで市衛生局医師団と今後の活躍と無事帰浜を誓い合い別れた。

消防隊を神戸市役所前に待機させ、総合指揮者は神戸市災害対策本部に出向し、本市派遣隊の到着を報告した。

3 一神戸市消防局の対応

神戸市災害対策本部の消防部は、神戸市消

防局二階警防部に設置されており、北海道から九州までの他都市応援派遣隊の責任者が集結しており、神戸市消防局の職員はこれら責任者への対応と、災害対応との両方に追われていた。

一時〇〇分、指令課長より、本市派遣隊は、八時三十分までに中央区を管轄する生田消防署に出向し、生田消防署長の指揮下に入る旨と、宿泊所の指定がなされた。

その後消防隊へ戻り、各隊長を集め、状況説明を行った後、後発隊の到着を待つて宿泊所である神戸市民防災センターへ向かうこととした。

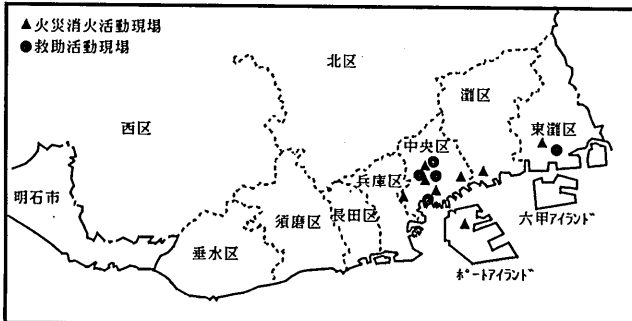
二時三十分、後発隊は神戸市役所前に到着、先発隊と合流して三時四十分神戸市民防災センターに到着した。車両、資機材を点検し、個人装備品を携行させ、二階講堂へと上がる。そこは、すでに他都市派遣消防隊が到着しており、ほぼ満員状態で、本市派遣隊員は横になることもできず、廊下等で体を休める状態であった。

四時〇〇分、教務係長より、三階視聴覚教室に応援派遣隊責任者は集合するよう指示があり、災害状況と市内の各派遣先消防署への経路の説明があった。二階講堂に戻り、五時〇〇分各隊長を集め、今後の災害活動に対する活動方針として、まず、車両特性から水槽車隊を消火専任隊とし、普通車隊を救助専任隊とし、消火専任隊のチーフを警防主任、救助専任隊のチーフを救助技術主任とした。そして、災害事象が偏る場合は、各専任隊の隊員を入れ替え、隊員相互の疲労の軽減を図ることとした。

出発風景



図一 2 消火救助活動



六時三十分、起床、車両、資機材を点検させ、七時五十分、本市応援派遣隊は、気力・体力旺盛のうちに生田消防署に向け出発した。八時二十分、生田消防署に到着、直ちに生田消防署長に対し到着報告と併せ、神戸市災害対策本部から生田消防署長の指揮下に入るよう指示された旨を報告した。

4 一 消火活動

「横浜市消防局派遣隊にあつては、管内の三宮において火災が発生しており、ただちに全隊をもって消火活動を実施願いたい。」との活動命令が下命された。

① 建物火災（中央区三宮二丁目）

⑦日時 一月十九日 八時三十分

①出場隊 十隊五十人

②活動内容

八時三十分出場、出場に際し地理不案内のため生田消防署の職員が添乗し、火災現場へ急行した。

火災現場は、商店街を形成する街区火災に拡大し、火勢は最盛期の様相を呈し、道路を越えて北側、東側住家への延焼危険が大の状況であった。直ちに現場最高指揮者（副署長）と接触、署長命令を受けて来た旨を報告するとともに、災害の状況、水利の状況等の情報を入力し、改めて消火活動支援の要請を受けた。

各隊長を集め、活動方針として、水槽隊五隊を北側道路に部署させ、タンク水を有効活用して延焼阻止活動を行うこと、普通消防隊

四隊にあつては海から中継送水体制を確立し、水槽隊への中継送水活動を行うこと、他の普通消防隊一隊は、水槽隊の活動範囲の照明活動と資材搬送等の支援活動を行うこととした。また、現場最高指揮者と連携を図りつつ、現場の警察官に遠距離ホース延長を行うことから交通規制を依頼し、ホースの通行車両によるれき損防止に配慮するとともに、付近住民への広報を依頼した。

一方、中継送水隊は、交通量の多い交差点等に際してはホースブリッジ（通水しているホース上を車両を通過させる時のホースの保護器具）を活用し、送水活動を行い、水槽隊にあつては延焼防止に成功後アーケード二階に転戦し、耐火建物内部に進入、消火活動を行った。

この時、水槽車からオーバーフローしている水を見て、市民の方に「水をたれ流しても構わない。」と言われたため、「この水は海水です。」と答えたところ、何故このような遠い現場で海から消防車が海水で消火しているのか疑問と驚異の目で見られた。

十時三十分頃、新たに自衛隊員三十人が現場に投入され、現場最高指揮者から自衛隊の支援活動に対し、当局で指揮を執るよう指示があった。

火災は火勢鎮圧し、残火処理の段階に入っていたことから、自衛隊員に、東側住家に放水活動を実施していた能見台消防隊と連携し、障害物排除活動を実施するよう要請を行った。

なお、本火災において、消防、警察、自衛隊が合同で活動する場合、各機関にそれぞれ指揮者がいる訳であるが、災害の性格上消

防がリーダーシップを執ることが適当であり、このことにより円滑な活動が実施できた。

また、断水地域の火災であったが、当局の戦術であるタンク放水で延焼を阻止しつつ中継送水体制を確立し、継続的な消火活動を実施するという活動がここでも有効であり、平常の警防訓練の成果が存分に発揮されたとと言えるであろう。

② 建物火災（中央区東雲通二丁目）

⑦日時 一月十九日 十一時三十五分

①出場隊 水槽隊五隊二十五人

②活動内容

前記火災鎮圧後、現場最高指揮者より病院火災が発生したとのことで、本市派遣消防隊に出場を要請された。消火専任隊五隊を出場させることを決定し、現場最高指揮者にその旨を報告、了解を得て再び生田消防署の職員を同乗させ火災現場に急行した。十一時三十五分現場到着すると、出火建物は病院ではなく一般住宅火災で、火勢は鎮圧状態であった。活動にあつては、現場最高指揮者の要請により、葺合水槽隊及び郡上広域消防本部中消防署隊へ、能見台、長津田、深谷隊の水槽隊から計五千五百リットルの送水活動を行った。

この他、火災出場は六回あったが、内容は自動火災報知設備の誤発報や鎮火後のもの、再燃火災等特記すべき内容でないので省略するが、本来の応援派遣要請が救助隊（一般的な救助隊の車両はポンプを積載していない）のところを、消防ポンプ付の消防車及び水槽車での派遣は正解であった。

消火風景



5 一救助活動

① 救助出場(東灘区本山中町二丁目)

⑦日時 一月十九日 十四時〇〇分～十六時四十分

① 出場隊 一隊五人

② 人的被害 女性二人収容

③ 使用資機材 マット型空気ジャッキ、鋸

④ 活動内容

現場付近は、住宅地で、周辺には倒壊若しくは倒れかかった建物ばかりで、無傷の建物は皆無と言ってよい状況であった。

本山中町二丁目の現場も、二階建木造住宅で、上から押し潰されたような状況であり、約三十人の自衛隊員が救助活動を実施していた。その自衛隊から支援の要請があった。

中型のクレーン車を活用し、上部から下方の排除作業を実施していた自衛隊は、要救助者一名を発見した段階で当局部隊に対し、搬送用の担架を要請してきた。当局部隊はこれに応じ、協力することとしたが、要救助者はまだタンス等に挟まれている状態であり、即搬送できる状態ではなかった。そこで、挟まれている部分の開放を実施し、女性一名を収容した。その後、同室でタンスの下敷きとなっている母親を発見し、マット型空気ジャッキにより開放して収容し、地元消防団に搬送を依頼した。

② 救助出場(中央区加納町四丁目)

⑦日時 一月十九日 十九時〇五分～二十時三十分

① 出場隊 五隊二十五人

② 人的被害 女性一人収容

③ 使用資機材 バール、鋸

④ 活動内容

神奈川県の鎌倉市、大阪府の富田林市の救助隊、自衛隊及び軽重機が投入されている現場への応援として出場した。

木造二階建ての共同住宅は、一階が完全に崩れ落ち、二階部分も半壊状態であった。先に活動していた救助隊等が、要救助者の位置近くまで進入路を確保していたことで、当局部隊は、資機材もほとんど使うことなく、短時間のうちに要救助者を発見、収容することができた。

活動を引き継いだ時点では、軽重機及び自衛隊員による人海戦術で建物の原形が判らなくなるほどの検索がなされており、長時間を要したことがうかがえた。

③ 救助出場(中央区下山手通三丁目)

⑦日時 一月二十日 十一時〇五分～十三時三十分

① 出場隊 三隊十五人

② 人的被害 男性一人収容

③ 使用資機材 バール

④ 活動内容

男性一名が倒壊した二階建て木造アパートの一階部分で下敷きになっているとの情報により出場。当局部隊のほかに、三重県・菰野町、大阪府・美原町、生田消防署救助隊が活動した。

建物の完全倒壊を防ぐため、隣接のビルと倒壊建物の屋根をロープで結着し、二階に進入し、柱、壁材及び什器類を手作業で除去し

つつ一階に至った。ここで、他都市部隊と交替した直後、要救助者を発見し、収容した。

④ 救助出場(中央区中山手通三丁目)

⑦日時 一月二十一日 十時三十分～十八時二十八分

① 出場隊 五隊二十五人

② 人的被害 男性一人、女性二人収容

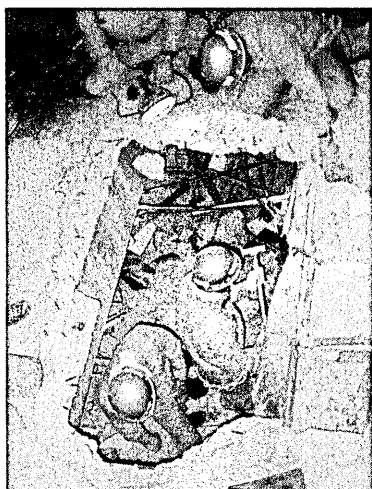
③ 使用資機材 ハンマードリル、エンジンカッター、マット型空気ジャッキ、大型油圧救助器具、バール、鋸

④ 活動内容

木造二階建て共同住宅の一階部分に要救助者三名がいるとの情報により出場した。建物は、一階と二階がずれて、一階部分が完全に潰れており、警察官からの情報で要救助者のいる部屋番号が確認されたものの、二階のどの部分が一階のどの部分にあたるか明確には判明しなかった。

活動は、二階居室に進入し床面の破壊による一階への進入、検索の実施を方針とした。床面は、波状の鉄板の上にモルタルが施されており、ハンマードリル及びエンジンカッターによる破壊活動を要した。同時に三部屋での活動を実施し、そのうちの二部屋から計三名の要救助者(すでに死亡)は発見できたが、それぞれ頭部及び手首等を軽量鉄骨のはりに挟まれており、その除去にはエンジンカッター、マット型空気ジャッキ及びバール等を必要とした。また、隊員間では要救助者の救出を待っている家族のことが頭にあり、絶対に損傷を与えないことを念頭に丁寧な活動に細心の注意を払い、救出までには長時間を要した。

救助風景



中継送水



⑤ 1救助出場（中央区中山手通三丁目）

⑦日時 一月二十二日 十時〇五分～十二時三十分

①出場隊 三隊十五人

②人的被害 男性一人収容

③使用資機材 チェーンソー

④活動内容

第二次派遣隊に交代後、最初の災害出場である。生田消防署の救助主任から、簡単な手書きの平面図を渡され、同乗し案内するから後は宜しくたのむとのことであった。付近住民から状況を聞いたところ、独居老人で姿が見えないという情報であった。

現場は、木造二階建共同住宅で、一階は見ると影もなく潰れ、二階は東側半分が瓦礫の山と化していた。チェーンソーで角材や板を切断しつつ瓦礫の除去にあたった。自衛隊二十人、警察官約十人もこれに加わった。作業開始約二時間後、埃にまみれた男性老人一人を発見、収容した。

⑥ 1救助出場（中央区中山手通三丁目）

⑦日時 一月二十二日 十時〇五分～十九時〇〇分

①出場隊 八隊四十人

②人的被害 女性一人収容

③使用資機材 チェーンソー、削岩機、エンジンカッター、発電投光器、ボール、大型油圧救助器具

④活動内容

前記共同住宅と同時に示された現場で、こちらも生田消防署の救助主任から、簡単な手

書きの平面図を渡され、当局の指揮の下、大阪府下の美原町消防本部の救助隊一隊五名と合同で活動に当るよう下命され、生田消防署の職員の同乗による案内により現場到着、現場は鉄骨造三階建共同住宅で、一階が約八センチメートルの高さに潰れ、かつ建物が南方向に約三メートルずれていた。また、一階はまさに縁の下の様相を呈していた。

一階に行方不明者がいるとの情報でとりあえず、二階の床を貫通して開口部を設定することから取り掛かったが、鉄骨の梁が邪魔でなかなかかどらず、救助活動を二班に分け、一班は一階の雑物の除去、二班は二階の床に開口部を設定することとした。床面は波板状の鉄板の上にコンクリートを厚さ五センチメートル程度流したもので、削岩機でコンクリートをはつり、エンジンカッターで波板状鉄板を切断して開口部を設定した。

作業を進め、情報により行方不明者がいると思われる範囲の雑物をほぼ除去し、もしかしたらいないのではと思われていたとき、除去していない雑物の中から時計のアラームの様な小さな音がするため、その付近の雑物を除去したところ、炬燵に頭を突っ込んで横たわっている女性を発見し収容した。

この救助活動を見ていた中年男性が、「実は、私の弟がこの建物一階に住んでいて、地震から連絡が取れない。弟のオートバイが置いてあり、いるかもしれないから探してほしい。」との情報もたらされた。

活動方針としては、一階の雑物の除去ではさらに奥には進めず、削岩機で二階の床のコンクリートをはつり、エンジンカッターで波

板状鉄板を切断して開口部を設定し内部を検索する方法とした。この方法で作業を進めたが、夜間になったため行方不明者を発見できないまま、現場にいた警察官と協議し本日の救助活動は終了することとした。

⑦ 1救助出場（中央区中山手通三丁目）

⑦日時 一月二十三日 十時五十七分～十三時四十六分

①出場隊 三隊十五人

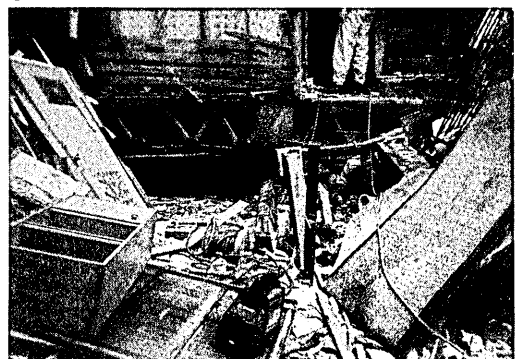
②人的被害 男性一人収容

③使用資機材 チェーンソー、削岩機、エンジンカッター、発電投光器、ボール、大型油圧救助器具

④活動内容

昨日に引き続き、開口部の範囲を広げ、行方不明者の検索を続行する。なかなか発見できないため、本当はここにいないのではないかと、間違った場所を探しているのではないかと焦りが隊員の表情に見えてきた。関係者の供述通りテレビや本が出てきているので間違いないと、隊員を納得させ、作業を進めさせた。そうこうしているうちに、布団が見え、布団の中を手探りさせると、人の足が触れた。隊員は、やる気を取り戻し、さらに開口部の範囲を広げ、布団の中で頭部を潰され、顔が変形した男性一人を収容した。この男性一人を収容するのに実に十時間を要した。隊員の表情には疲労感はなく、任務を達成した充実した表情となっていた。また、資機材を積載している時、市民から「よく横浜から来てくれた。コーヒーを飲んでいけ。」と声を掛けられた時は本当に嬉しかった。

⑥・⑦の共同住宅一階



⑥・⑦の共同住宅



救助活動は、このほかにも六件あり、破壊、検索活動を実施したが、行方不明者を発見できなかったため、紙面の関係で省略する。

一月二十五日は、東灘消防署長の指揮下で活動したが、十八時〇〇分、署長室に当署に応援に来ている派遣隊の責任者が集められ、東灘消防署長から丁寧な言葉で救助活動の終結が宣言された。そして、事後の活動の重点は消火、救急であると告げられた。実質的な救助活動の終了であった。

6 今後の課題

今回の阪神・淡路大震災における応援派遣隊は自画自賛になるが、第一次派遣隊の派遣、第二次、第三次の交代要員の派遣等円滑に推移したものと思う。しかし、今後検討を要する課題が幾つか指摘され、当局で検討中である。その中で、派遣をされた本人として、当座必要な最小限の寝袋、非常用食料、携行缶による燃料などを携行したが、食、住、燃料を混乱している相手先に求めるのは心苦しいものがあった。相手先に負担をかけない食住完結型の自衛隊のような応援隊が本来あるべき姿であろう。

残念ながら本市の消防には国際消防救助隊用に少しはあるものの野戦対応能力は十分ではない。

また、本市が被災地になった場合、我々は災害対応を当然第一義として考えているが、他都市からの応援を受けることも想定しなければならぬ。この応援派遣隊にいかに対応すべきか、現行計画で定めてあるとはいえず、

表 消防隊活動概要

月 日	災害種別	場 所	被害程度	備 考	
1月19日	消 火 活 動	中央区三宮	1500㎡消失	10隊出場	
		中央区東雲通	32㎡消失	5隊出場	
		東灘区本山中町	-	活動なし	
	救 助 活 動	東灘区本山中町	女性2人収容	1隊出場	
		中央区加納町	男性1人収容	5隊出場	
	その他の活動	中央区栄町	-	給水活動	
1月20日	救 助 活 動	中央区明石町	-	7隊出場	
		中央区下山路通	男性1人収容	3隊出場	
	その他の活動	中央区加納町	-	救出済み	
		中央区本町	-	危険物排除	
		中央区楠町	-	警戒	
	1月21日	消 火 活 動	中央区下山路通	-	誤報
			中央区中山手通	-	被害調査
			中央区中山手通	-	誤報
救 助 活 動		中央区中山手通	-	誤報	
		東灘区本山中町	-	消火済み	
		中央区明石町	発見できず	2隊出場	
1月22日	救 助 活 動	中央区中山手通	男性1人女性2人収容	5隊出場	
		中央区中山手通	-	誤報	
	消 火 活 動	中央区中山手通	男性1人収容	3隊出場	
		中央区中山手通	女性1人収容	8隊出場	
1月23日	救 助 活 動	中央区中山手通	男性1人収容	3隊出場	
		中央区中山手通	-	4隊出場	
1月24日		中央区生田消防署	-	待機	
1月25日	消 火 活 動	東灘区魚崎南町一帯	-	被害調査	
		中央区港島	廃材若干	1隊出場	
1月26日	その他の活動	中央区ポートアイランド	-	被害調査	
		灘区灘消防署管内	-	防火水槽の補水	
	消 化 活 動	灘区岩屋中町	-	待機	
1月27日	その他の活動	灘区岩屋中町	-	再燃防止	
		中央区ポートアイランド	-	被害調査	
		灘区灘消防署管内	-	防火水槽の補水	

宿泊場所、食糧、燃料などの調達、応援派遣隊の戦力の配分、それを誰が対応するのかまでの細部について一層考えておかねばならない。

△阿部Ⅱ消防局警防課現場指揮第一係 長▽

各種計画の見直しが必要なのは当然であるが、計画外のことが発生したならばどうするか。今回の地震では壊れるはずがないものが壊れた災害であった。常に柔軟な発想のものと臨機応変な判断が求められる。

最後に、陸上派遣隊の活動概要を表にして添付した。